

平成21年5月18日

埼玉県知事 上田 清司 様

埼玉県環境部資源循環推進課 課長 渡辺 充 様

埼玉県環境整備センター 所長 保科 弘 様

寄居町監視員 会長 / 寄居町連合環境協議会 会長 山口 一 様

## 彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業での廃棄物埋立てについて

日頃より彩の国資源循環工場と埼玉県環境整備センターでの廃棄物埋立てに関して、安心・安全の実現のためご活躍いただき、御礼申し上げます。

当会も微力ではありますが寄居町・埼玉県を愛し、寄居町・埼玉県の貴重な財産である、地元住民の暮らしと豊かな生態系を育む里山の自然環境を形成している、該当施設周辺を守るべく活動しております。

昨年3月には、埼玉県の「彩の国資源循環工場 効果検証」を検証。その結果、現実をゆがめて地元協議会、三ヶ山特別対策委員会(寄居町議会)に報告していたことを突き止め、前述団体らに報告しました。(添付書類1参照)

9月には、他団体と共に埼玉県へ「彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業での埋立処分場計画の凍結について」陳情書を提出しました。(添付書類2参照)

12月には、やはり他団体とともに寄居町、寄居町議会、埼玉県、埼玉県議会へ陳情書を提出しました。(添付書類3参照) その際、寄居町、寄居町議会へそれぞれ617筆、605筆、埼玉県、埼玉県議会へは1万3274筆もの署名が集まりました。(埼玉県へは当初、請願としてしましたので陳情と変更した時点で署名は添付せず、書面の中に数値を入れました)

この間、多くの方々と共に該当施設について検討しましたが、やはり、このたび埼玉県が推進している彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業での廃棄物埋立てにつきましては、その計画を当分凍結していただきたくお願い致します。

終了計画を2年も過ぎた昨年度末にやっと計画の半分の量が埋立て終了できたので、まだ半分の量が残っているため、今現在埋め立てている環境整備センター地内が埋立て終わってからも十分間に合うという時間的余裕があります。

また、ゴミ減量とゴミ資源の有効活用が進んでいる昨今、今後さらに埋立て量が減っていく可能性が大という、量的にも余裕があります。

これらの事業には、寄居町民を含む埼玉県民の多大な税金が投入されます。次世代に多大な負担をかける税金を節約するためにも、計画の引き延ばしである凍結は大変有効です。

さらにこの第Ⅱ期事業計画地は、埼玉県が三ヶ山での廃棄物埋立て事業の代わりということで、埼玉県グリーンバレー計画の一環として県営の工業団地建設という名目で、地元住民らから買い上げたものです。そこにさらに廃棄物を埋め立てるとするのは、詐欺にも等しい行為です。

また寄居町も埼玉県のグリーンバレー計画に沿って、町の開発計画を立てており、このあたりは観光と農業と工業のコンビネーションで進むはずでした。これでは、寄居町は1つの町で3つの廃棄物埋立て地を持つことになり、事実上、廃棄物に頼った行政となってしまいます。

環境面、健康面、風評面からも寄居町の負担は大きくなると考えられます。また、始めのうちは埋立地、工場からお金が入りますがひとたび地震などの自然災害、故障や事故、通常稼働などで公害が起きれば、財政面を含む数々の面から負担を強いられるのは目に見えています。

以上のことから、第Ⅱ期事業での廃棄物埋立ては、凍結した方が寄居町民・埼玉県民にとって得策です。

彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば 埼玉県大里郡寄居町民

加藤晶子